

JA全農えひめ情報

みくらんど

■特集

JA全農・愛媛県本部「3か年計画」

■JA直売所めぐり

おたのしみ市城南店・おたのしみ市とべ店・ふるさと市～Aコープ～

4

2013・April





▶長さなど、質を統一して出荷



▶施肥、無農薬の菖蒲畑で一斉に収穫が行われる

しょうぶ 菖蒲の収穫・出荷

(JA西条)



5月5日の端午の節句はちょうど春から夏への季節の変わり目にあたり体調を崩しやすく、無病息災を願って菖蒲湯に入る習慣は今もなお全国各地で続いています。

水の豊かな西条市で、30年ほど前に本菖蒲の自生種を採取して菖蒲湯用の出荷が始まりました。しかし、護岸工事や池周辺のコンクリート化が進み自生種は減少。今は3戸の農家が自生種に加え、10aの畑で栽培をしています。本菖蒲は、花菖蒲とは全く別物のサトイモ科で、春になれば自然と葉が出て育ちます。加えて、事前注文で出荷数量が把握でき、計画的に作業ができる利点がありますが、出荷時期が4月末から5月初旬に限定されるため、毎年近所の主婦ら約20人を動員し繁忙期を乗り切っています。

保温効果や鎮痛作用のある菖蒲湯ですが、特に西条の自噴水「うちぬき」育ちの本菖蒲は緑が濃く、独特のよい芳香を放ちます。JA西条では新春の「七草」同様、日本古来の伝統的行事・菖蒲湯も次代へつないでいきたいと、今年も約5,000パックを関西圏を中心に、一部は県内に出荷します。

また、節句の日には「天然温泉武丈の湯」(西条市大町)も菖蒲湯となります。

めぐり〜ど

April 2013

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



4月からはピッカピカの1年生。お父さんは持ち物に全部名前を書いて、お母さんはお兄ちゃんの制服の寸法あわせが忙しそう。鏡の前で緊張感たっぷりのお兄ちゃんをうらやましそうに見てる妹、お団子を運んできたおばあちゃんも「よく似合ってるねえ」と目を細め、今日はお兄ちゃんが主人公。

新しい春、はじまります。

- 表紙：入学準備
はら ふみ(イラストレーター)

※「めぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.148

菖蒲の収穫・出荷

(JA西条)

2

〈特集〉

JA全農・愛媛県本部「3か年計画」

～変革・創造・実践～

元気な産地づくりと地域の暮らしへの貢献
などに全農グループをあげて取り組みます

11

THE・ねっとわーく

15

統計BOX

16

ふるさと ESSAY VOL.216

笑顔は幸せの魔法なのです！

藤崎 朱美さん

18

TOPIC NEWS

21

なんでもBOX

22

JAふるさと自慢Vol.148「直売所めぐり」

おたのしみ市城南店～Aコープ城南店～
おたのしみ市とべ店～Aコープとべ店～
ふるさと市～Aコープおだ店～

24

READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉麦味噌

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

- JA全農えひめ「えひめの食」企画
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimemosyoku/>
※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

- ◆(株)えひめ飲料
<http://www.ehime-inryo.co.jp>
- ◆JAえひめアイパックス(株)
<http://www.iyokkora.jp/>
- ◆JAえひめ物流(株)
<http://www.jat-ehime.co.jp/>
- ◆JAえひめフレッシュフーズ(株)
<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>
- ◆(株)ひめライス
<http://www.himerice.jp/>
- ◆JAえひめエネルギー(株)
<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

（変革・創造・実践）

元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献 などに全農グループをあげて取り組みます

JA全農は、平成25年度からスタートする「3か年事業計画」（25～27年度）で、①元気な産地づくりと地域のくらしへの貢献、②国産農畜産物の販売力強化、③海外事業の積極展開を3大重点事業施策として位置づけ取り組みます。愛媛県本部では、「トータルアグリリード事業」を通じて、担い手の所得確保と経営安定化に取り組みます。

JA全農 3か年計画

基本方向

(1) 情勢・事業環境をふまえた最重点施策

JA全農は、取り巻く事業環境・情勢をふまえ、次のア～ウを3か年（25～27年度）の3大重点事業施策

と位置付けます。その実現に向けては、県連・県JA・JAと十分な連携・一体感をもって、全農グループを挙げて取り組みます。

ア．元気な産地づくりと

地域のくらしへの貢献

弱体化する生産基盤を維持・拡充するため、県ごとに実需者ニーズを

踏まえた地域生産振興策、生産支援対策をさだめます。具体的には、モデル圃場を活用した生産提案、新規就農支援、労働力不足の問題に応じたJAの農作業受託事業への支援など、踏み込んだ生産支援に取り組みます。

また、農業経営の大規模化や農業従事者の高齢化など、生産現場の変化とニーズに対応し、低コスト生産技術の開発・普及、広域化など事業方式等の合理化によるコスト低減、軽労化に資する資材開発などを進め

平成25～27年度3か年事業計画

とりまく事業環境の変化

生産基盤の弱体化

- ・耕地と就農人口の減少
- ・生産者の高齢化、労働力不足の顕在化
- ・耕作放棄地の拡大

農業の交易条件悪化

- ・肥飼料原料価格の高騰、高止まり
- ・輸入農畜産物の増加と国産農畜産物の価格低迷
- ・消費税率の引き上げによる一層の消費低迷懸念
- ・引き続き原発事故の風評被害

消費・流通の変化

- ・食の外部的化、加工食品の需要増
- ・消費の簡便化、小口化
- ・食品企業などによる産地の囲い込み

地域社会の活力低下

- ・高齢化、人口減少による集落機能の低下
- ・ライフラインの不安

農業をとりまく環境は、あらゆる面で深刻化

平成25～27年度 3か年事業計画

全農グループを挙げて取り組む 3大重点事業施策

1. 元気な産地づくりと地域の暮らしへの貢献

- 生産基盤の維持・拡充に向けた地域生産振興の策定・実践とJAの営農活動への支援
- 省力・低コスト技術の開発・普及による生産、収穫、保管トータルでのコスト低減
- 組合員、地域住民のニーズに対応した地域の暮らしへの貢献

2. 国産農畜産物の販売力強化

- 取扱品目別に市場や取引先を明確化し、必要な施設等を整備して大消費地圏はじめ地域実態に応じた販売戦略を策定・実践
- JAグループ主導のバリューチェーン構築に向け、商品開発、加工、中食・外食分野へ積極的に進出

3. 海外事業の積極展開

- 新規調達先の確保など肥飼料原料の購買力の維持・強化
- 東南アジアなど新興国市場への国産農畜産物の輸出拡大

3大重点事業施策を実現するための 経営基盤拡充

4. 将来のリスクや戦略的投資に備えた経営基盤拡充

- 自然災害や海外原料相場の高騰など損失リスクに耐える経営基盤構築
- 事業競争力強化に向けた投資財源確保

ます。
JAの地域における役割が大きくなる中、地域の暮らしに貢献するため、Aコープ店舗等での買い物支援や、地域インフラとしてのセルフS

Sの設置、太陽光発電支援事業による再生可能エネルギーの取り組みなど、組合員、地域住民のニーズに的確に対応したサービスの拡充を進めます。

イ. 国産農畜産物の販売力強化

国産農畜産物の消費が減退し、流通環境が厳しさを増す中で、取扱品目別に市場や取引先を明確化し、必要な施設等を整備して大消費地圏はじめ地域実態に応じた販売戦略を策定・実践し、全農グループの取扱高拡大に取り組みます。

国産農畜産物の生産、集荷、加工、物流など各過程において、他業者との連携などにより、それぞれの機能を高めながら相乗的に付加価値を生み出すJAグループ主導のバリューチェーンを構築し、生産者の所得向上を図ります。

また、消費者により近い領域での事業として、炊飯事業の強化、園芸のカット・加工への進出、焼肉店など外食店舗のチェーン化、全農ブランド商品の開発などを加速します。

ウ. 海外事業の積極展開

肥飼料原料の価格が高騰、高止まりする中で、JA全農は連合会の最重要機能のひとつである海外事業を積極的に展開し、原料の調達強化と農畜産物の輸出拡大に取り組みます。

購買事業においては、肥飼料原料の需給緩和が当分見込めないなか、

購買力の維持・強化を図るため、輸入の多元化など調達基盤の強化、海外サプライヤー等との提携、海上輸送の合理化、海外原体メーカー等との新農薬の共同開発などに取り組みます。

販売事業においては、東南アジアなど新興国市場への輸出を拡大するため、統一的な交渉窓口をつくり、輸出先ごとに生産、流通、消費の実態をふまえた長期的な販売戦略を策定・実践します。

Ⅰ. 将来のリスクや戦略的投資に備えた経営基盤拡充

以上の重点事業施策を実践するため、自然災害や海外原料相場の高騰などの損失リスクに耐えうる経営基盤の構築を図るとともに、施策の実践に必要な投資財源を確保するため、財務体質の改善や経営基盤の拡充を進めます。

(2) 東日本大震災からの復興支援の継続

東日本大震災からの復興に向けて、JAとの連携のもと、被災地のニーズに即した営農・くらしへの支援に引き続き取り組みます。

原発事故による風評被害の払拭に向けて、消費者が国産農畜産物を安

心して購入できることをめざした情報宣伝活動などに率先して取り組みます。

(3) 国内農業を維持・強化し、国民理解を醸成する広報の積極展開

JA全農は、国民の食料確保のみならず、環境保全、地域社会の基礎産業としての役割など多面的な機能を有するわが国農業を維持・強化するため、(1)(2)の施策を展開する中で、JA全中とも連携し、こうした農業の役割を国内世論として形成する広報活動を積極的に進めます。

事業別実施具体策・行動計画

米穀農産事業

玄米・精米の販売力を強化し、組織力を結集した米の集荷拡大と生産者手取りの向上に取り組みます。集

荷面では、大規模生産者のニーズに応えるフレコン・庭先集荷の拡大、実需者を明示した生産提案、TAC部門や営農・生産資材部門との連携による集荷推進強化を進め、取り扱いを拡大します。販売面では、大手実需者とJAを結ぶ播種前契約等の安定的取引を拡充するとともに、品質管理、コスト削減の徹底によるパールライス精米販売の競争力強化、

炊飯事業強化など、消費者に接近した販売を拡大します。

麦類・農産事業では、国産麦類・大豆・でん粉等を一元的に取り扱う体制を構築して食品メーカー等への対応力を向上し、原料販売と製品・副産物購買との連携を図ることで、全農グループの総合力を発揮した販売力強化に取り組みます。

園芸事業

重点卸売市場との契約取引の拡大や、新たな集荷・販売拠点の設置による生協・量販店等への営業強化など、実需者に接近した販売を強化します。

また、実需者ニーズを踏まえた産地への生産提案活動を強化するとともに、営農・生産資材部門等との連携による生産支援に取り進むことにより、生産者手取りの安定化をめざします。

とりわけ、輸入品の使用が増加している加工・業務用需要に対しては、周年供給の実現に向け、専用産地づくりに取り組むとともに、一次・二次加工機能の強化を図るなど、契約取引を拡大します。

営農販売企画

生産・販売の一体的な取り組みを推進し、大規模営農における経営モデルの実証や、加工・業務用野菜

表1 J A全農 3か年（25～27年度）取扱計画

（単位：億円）

事業	25年度	26年度	27年度
米穀農産事業	8,492	8,866	9,173
園芸事業	10,802	10,979	11,126
畜産事業	10,726	10,688	10,920
営農・生産資材事業	8,360	8,489	8,375
生活関連事業	9,896	9,915	9,578
合計	48,277	48,937	49,171

の周年供給体系技術の確立を進めます。また、T A Cの活動レベル向上に取り組み、担い手ニーズの収集やJ A内部の部門間連携の強化による生産支援とJ A事業の拡大を進めます。

国産農畜産物の販売力強化の取り組みでは、実需者ニーズにもとづく産地への生産提案やJ A全農が自らおこなうリテール事業の拡大を図るとともに、輸出拡大に向けた統一的な交渉窓口をつくるなど国内の体制整備を進めます。

生産資材事業

農業の生産基盤が弱体化する中で、一方では農業経営の大規模化が進み、生産現場のニーズは多様化しています。J A全農は、こうした現場ニーズに基づき、担い手向けの品目提案メニューの充実を図るとともに、省力技術・商品の開発、実証、普及をすすめる、トータルでの生産費低減に取り組めます。また、海外山元との関係強化や輸入元の多元化、農薬等の共同開発の拡充に取り組み、購買力の維持・強化を図ります。

事業推進面では、J AのT A C部門との連携を強化するとともにブロック域での広域物流の実践やJ A生産資材店舗の活性化、Webを活用した購買などを進め、J Aの生産者対応と事業運営を支援します。

畜産事業

国産畜産物の販売力を強化するため、加工・外食分野など消費者に近い領域での事業展開を加速するとともに、海外に販売拠点を設置し、現地ニーズの把握や新たな商品提案をおこない輸出を拡大します。生産者に対しては、米国での集荷拡充、産地多元化、配船の見直しなど飼料原料購買機能の強化による安定供給および畜産に係る革新的な技術の開発・普及による生産性向上と生産基盤維持・拡充に向けた取り組みを強化します。

生活関連事業

安心して暮らせる地域づくりに貢献するため、Aコープ店舗やS Sの戦略的配置を図りつつ、高齢化や利便性に対応した「J Aくらしの宅配便」等のネット宅配事業の強化やAコープ店舗を核とした買い物支援、老朽化S Sの再編提案を進めます。国産品を原料とする農畜産加工品や惣菜・弁当商品の開発と取扱拡大のため、販売部門、加工業者との提

携を進めます。また、J Aグループ商品の掘り起こしなどを通じて、全農ブランド商品の開発と取り扱いを強化します。

事業運営・経営管理

会員J A・組合員との意思疎通を充実するとともに、管理部門の効率化をさらに進めます。事業活動の基礎であるコンプライアンスについては、子会社管理を含め、その態勢の一層の強化に取り組みます。また、J AグループとしてT P P断固反対を主張する広報を展開するとともに、震災復興支援、国産農畜産物消費拡大に向けた広告・宣伝や情報提供活動を強化します。

経営計画

取扱高

青果物価格の低迷や長引く不況の影響による消費の減退等が見込まれるものの、販売力強化をはじめとした重点事業施策の取り組みや、米価および飼料など海外原料価格の上昇等を織り込み、取扱高は25年度4兆8,200億円、26年度4兆8,900億円、27年度4兆9,100億円を見込みます。

収支計画

当期剰余金は、重点事業施策の取

り組みにより段階的に取扱高の増加を見込んでいますが、26年度以降に事業継続計画にかかるシステムの二重化費用が発生すること等から、25年度63億円、26年度52億円、27年度55億円の計画とします。

なお、事業利益は3か年とも黒字を維持し、27年度で8億円とします。

剰余金処分

出資配当は収支計画をふまえ、各年度とも2%配当を計画します。

投資

事業の伸長、利益体質の強化に資する戦略的投資および防災対策への投資等を実施するため、3か年で600億円程度を計画します。

コスト削減にむけた広域物流施設（米、生産資材など）や消費者への接近を可能とする販売加工施設、地域でのくらしを支援する生活関連事業施設などの取得をすすめます。また、6次産業化事業体設立のための

外部出資や災害への備えとして情報システムにおける二重化対策等を実施します。

要員

事業環境に対応した要員体制とする観点から、24年度末の計画要員数から250名程度削減し、27年度末で8、150名程度とします。

愛媛県本部 3か年計画

最重点施策

愛媛県本部は、3か年計画（25～27年度）において、9年間展開してきた「生産・販売・購買一体事業」を拡充・強化し、畜産事業を加えた「トータルアグリード事業」として、産地基盤の維持拡大に取り組みとともに、県内産農畜産物の生産・流通・販売・購買の各段階における効率的

な事業運営により事業・組織の結集を図り、元気な産地づくりを実践します。

生産面では、地域特性を活かしたブランド化や売れる農畜産物づくりによる産地育成に取り組み、生産者手取りの安定と担い手確保を図ります。

流通・販売面では、多元的販売による販売体制の強化に取り組み、愛媛チームとしての生産・販売力の強

化を図ります。

購買面では、新素材・新技術の開発普及による生産資材コストの低減はもとより、総合的な物流体制による物流コスト低減に取り組みます。

また、生活関連事業を通じた地域の元気づくりとくらしへの貢献に取り組めます。

耕種事業

（食糧部・営農販売部・生産資材部）

担い手の所得向上に向けて、生産・流通・販売面の環境変化に対応した新技術導入、低コスト資材の供給及び物流コストの低減化、TAC活動の強化とビジネスモデル品目を軸と

した販売力強化に取り組みます。

また、「えひめの食」企画による広報、ふれあい活動等を展開し、消費者の豊かな食生活づくりを提案するとともに環境保全型農業を推進し、愛媛農業および愛媛県産農畜産物への理解と支援をはかります。

畜産事業

肉牛・肉豚生産者の経営安定と生産性向上対策を支援し、消費者に支持される高品質生産とブランド化による産地基盤の維持拡大に取り組みます。

また、JAならびに全農畜産グル

ープが一体となった銘柄確立と販売力強化を進め、生産者の所得向上に取り組みます。

生活事業

エコープマーク品の普及拡大、高齢化に対応した事業の構築により組合員ニーズを的確に把握した事業展開をはかります。

なお、ネット販売や宅配便の活用による県産品を中心とした農畜産物の消費拡大に取り組みとともに、くらしの安全・安心・健康への貢献に取り組みます。

また、買物弱者支援を基軸とした新たな生活資材供給体制の構築をはかるとともに、石油・ガス等の効率的供給体制の確立により、地域インフラとしての社会的使命・役割の発揮に取り組みます。

あわせて、環境関連事業強化により快適で環境にやさしい生活を支援し、安心して暮らせる「地域くらし戦略」の支援に取り組みます。

総合物流

広域物流センターを中心にJA総合物流を再構築し、「営農と生活を守る物流」の整備とコスト低減による事業競争力の強化に取り組みます。

グループ会社

JAグループの会社として生産

「トータルアグリード事業」 について

1. 名前の由来

「愛媛農業（Agriculture）」を「リード（lead）する」という意味と、「心をつなげる（Agreed）」という意味を込めている。

2. 趣旨

(1) 耕種事業においては、第1～3期生産・販売・購買一体事業の実績を踏まえ、第35回JA愛媛県大会でも決議された「地域農業戦略」を実践していくために、コアモデルをさらに進化させ、販売に重点をおいたトータル戦略として、品目別にビジネスモデル品目を設定し、系統の総合力を結集し、販売力強化により担い手の支援を進める。

(2) 畜産事業においては、強固な生産基盤作りに向け、農場毎の生産性向上を支援するとともにブランドの品質と安全性を高め、販売先・消費者に対してブランドの認知度向上と地産地消の理解醸成を進める。

者・JA・消費者の期待に応えるよう、生産・加工・販売・購買・物流の各分野においてグループでの事業機能の向上をめざします。

愛媛県本部グループ会社全社の経営・財務基盤を確立し、愛媛農業の振興支援に取り組みます。

事業別実施具体策

食糧部

① (株)ひめライスとの連携を強化し、県域生販一貫体制にもとづく「ひめライス」ブランドの拡販と定着を図るため、買取販売を強化し、県内需要者・消費者のニーズに応える集荷量の確保に取り組みます。

② 需要に対応したJA別・銘柄別作付計画の策定と作付誘導を推進し、産地ブランド米の確立や契約栽培等の企画販売に取り組み、生産者手取りの向上をめざします。

③ 全国一の生産量を誇るはだか麦を主体に、担い手を中心とした生産振興と品質向上に取り組みます。

④ 「トータルアグリード事業」を展開する中で、栽培条件に適應した水稻高温耐性品種やはだか麦高品質品種の導入拡大に取り組みます。

営農販売部

① コアモデルを更に進化させ販売に重点を置いたトータル戦略として、品目別に重点ビジネスモデル品目を設定し、系統の総合力を結集して担い手への支援を強化していく「トータルアグリード事業」を展開します。

② 県・県本部オリジナル品種の産地化・ブランド化を進めるとともに、生産履歴記帳対策やGAP手法の導入による安全・安心で信頼される産地づくりに取り組みます。

③ 「愛媛チーム」として県域販売体制強化による市場への有利販売及び提案型販売強化による売り場確保・拡大と、規格・荷姿提案による商品力の向上・コスト削減に取り組みます。

④ 拠点市場・量販店等との連携強化、生産者と消費者の結びつきを強化するため、企画販売など多角的販売及び直販事業の拡大に取り組みます。

⑤ 青果物の消費拡大・購入促進を図るため、対面型消費宣伝活動の強化と「えひめの食」企画、「オレンジロード」による青果物全般の情報発信と、販売事業と連動した効率的な消費宣伝活動、消費者

への効果的な産地アピールに取り組みます。

畜産部

① 系統畜産生産基盤の維持拡大をめざし、肉豚20万頭、肉牛5、550頭の取扱体制作りに向け、畜産グループとして生産者を支援します。

② 生産農家経営の維持向上のために、JA西日本くみあい飼料(株)・JAえひめアイパックス(株)との連携・強化を図り、生産性向上と肉質改善対策に積極的に取り組みます。

③ 安全・安心な伊予牛「絹の味」、「ふれ愛・媛ポーク」の認知度向上と消費拡大に向け、生産者・JA・販売先・行政と連携し、消費者に対する消費宣伝活動に積極的に取り組みます。

④ 生産者・JAと一体となり、販売先に対する愛媛農業への理解醸成と地産地消の啓蒙活動を実施し、県域・地域ぐるみの産地支援体制の構築に取り組みます。

生産資材部

① 多様な担い手への営農支援の充実と省力化を含めたトータルの生産費の削減を図るため、低コスト・省力化に繋がる肥料農薬・生産資材・施設・農機の開発・普及

に努め、生産基盤の維持拡大に取り組みます。

② 予約結集と購買店舗の活性化による農家対応力の向上をはかり、的確な施肥防除技術に基づく企画提案と仕入れ購買機能の強化に努めます。

③ J A 物流センターの機能強化に努め、J A グループにおける低コスト供給体制を構築するため、関係組織との連携をはかり総合的な物流体制の整備に取り組みます。

④ 農機事業の環境変化に対応するため、系統シエアの拡大に向けて新品事業と部品・中古・修理整備事業のバランスをはかり、効率的な事業運営体質の強化に努め、J A 農機事業の黒字化を進めます。また、部品事業は、西日本農機部品センターとの連携強化と業務の改善に努め、更なるサービス向上と効率化の徹底に取り組みます。

⑤ 施設・園芸資材事業における事業環境に対応するため、施主代行方式による事業強化と拡充に取り組みます。施設事業においては、関係部署との連携をはかり、既存施設への診断・提案活動の強化を行い、事業領域の拡大に努めます。住宅事業においては、情報収集機能の強化を図り、J A 総合事業と

しての事業の再構築に取り組みます。

⑥ 段ボール事業の競争力強化と安定供給をはかるため、系統結集による原紙仕入れ等購買力の発揮と「全農唯一の工場」である優位性を活かした事業機能の高位水準化を進め、多様化ニーズに対応した安全・安心で高品質な段ボールと副資材の低コスト生産・供給体制の確立に取り組みます。

生活 部

① 地域農業の振興に寄与する「J A グループ愛媛農畜産物消費拡大運動」に積極的に取り組むとともに、「J A くらしの宅配便」「J A タウン」「旬鮮倶楽部」等新たな供給チャネルの体制強化をはかります。

② 国産原料を主原料としたエコープマーク品の取扱拡大および配置家庭薬事業の普及により、組合員の健康増進に努めるとともに、J A メモリアル事業体制強化に向けた「J A えひめ葬祭協議会」の事務局機能強化に取り組みます。

③ 生活必需品の安定供給のための「Y ショップ」「移動購買車」等の導入促進により、買物弱者支援に取り組みます。

④ 「新エネルギー事業」への取り

組み強化をはかり、「太陽光発電」等新エネルギー関連商品の取扱拡大により地球の環境保全に積極的に取り組みます。

管理 部

① コンプライアンス意識の浸透・定着と4大リスク（債権・在庫・現金・食品表示）を重点としたリスク管理に取り組み、コンプライアンス態勢の維持・強化をはかります。

② 本所集約化など管理部門のスリム化・効率化に取り組みとともに、収支管理・投資管理・要員管理についての管理強化をはかり、経営目標の達成に取り組みます。また、子会社管理態勢を強化し健全経営の確立に向けた指導・支援に取り組みます。

③ 第35回J A 愛媛県大会で決議された「次代へつなぐ協同」の実践事項にもとづき、「トータルアグリッド事業」を実践し、元気な産地づくりに取り組みます。

④ J A 意見交換会やJ A 巡回等を通して、会員の意思を事業運営に取り入れ、満足度向上を図ります。

⑤ 各事業部門における事業施策の実現に向け、営業力・企画力向上のための人材育成と要員の適正配置を図ります。

⑥

JA・組合員に対し県本部グループ事業への理解向上と、広く消費者に対し県産農畜産物の消費拡大に向けた情報提供活動を展開します。また、TPPへの参加反対などのJAグループの活動に積極的に参加します。

表2 愛媛県本部 3か年（25～27年度）取扱高計画

(単位：億円)

事業	24年度計画	25年度計画	26年度計画	27年度計画
米穀事業	30	33	30	30
営農販売事業	445	439	455	448
畜産事業	106	108	108	108
生産資材事業	167	160	157	160
生活関連事業	144	125	125	129
合計	892	865	876	875

表3 グループ会社 3か年（25～27年度）売上高計画

(単位：百万円)

会社名	24年度計画	25年度計画	26年度計画	27年度計画
(株)えひめ飲料	32,006	30,119	32,286	32,297
JAえひめアイパックス(株)	4,066	4,175	4,182	4,194
JAえひめフレッシュフーズ(株)	2,824	3,140	3,306	3,361
(株)えひめライス	5,168	5,609	5,672	5,704
JAえひめエネルギー(株)	3,085	3,141	3,110	3,080
(株)えひめフーズ	662	793	780	812
JAえひめ物流(株)	7,160	7,120	6,980	7,280
合計	54,971	54,097	56,316	56,728

経営計画

取扱高計画

畜産物価格の低迷や長引く不況の影響による消費の減退、高齢化等による生産基盤の弱体化および生産資

材や生活関連品の需要停滞の状況を踏まえ、取扱高(事業分量)は、25年度865億円、26年度876億円、27年度875億円を見込みます。

収支計画

当期利益計画は、①「トータルアグリード事業」の展開による産地育成や担い手確保、②愛媛チームとしての多元的販売やブランド販売体制の強化、③新技術普及等による生産資材のコスト低減や総合的な物流体制構築による物流コストの低減、④生活関連品の普及拡大や高齢化に対応した事業構築を図り、25年度32百万円、26年度62百万円、27年度1億48百万円の計画とします。

投資計画

遊休施設の有効活用、施設老朽化対策、コスト低減・環境整備対応、消費電力削減等のための施設投資およびサーバ更新・システム改善のための情報システム開発を計画します。

要員計画

管理部門の本部事業集約の開始や事業環境に対応した適正な要員体制の観点から、25年度期首の要員233名から15名削減し、27年度末で218名とします。

THE

ねとわーく

「青果販売課を「果実課」「野菜花卉課」に分割します。

管理部

J A全農えひめは、4月1日付で、平成25年度の機構改革と人事異動を実施しました。

平成25年度からスタートする「3か年計画」では、新たに販売に重点を置いたトータル戦略「耕種・畜産トータルアグリード事業」を展開し、

担い手の所得確保と経営安定化の取り組みを強化します。このため、営農販売部に同事業の専任部長を置きます。青果事業の販売力および機能強化のため、「青果販売課」を「果実課」と「野菜花卉課」に分割します。

また、「えひめの食」商品の販路拡大事業の推進体制として、新たに果実・野菜・米麦・畜産物の各部門とグループ会社の(株)えひめ飲料を含め部門間連携(横断)による「えひめの食販売推進統括本部」(統括本部長 高橋勉 副本部長)を設置し、機動的に事業を展開します。

同本部は、県とJAグループ愛媛との包括協定に基づき、愛媛県「愛のくにえひめ営業推進本部」との連携を強化し、各種フェア・商談会参加など、えひめブランドのイメージアップや販売促進にも取り組んでいきます。

◆平成25年度機構(平成25年4月1日現在) Ⅱ 6部16課17事業所(機構図は12ページに掲載)
◆人事異動は、平成25年度期首職員数235人中、異動者数102人です。

審査役以上の異動は、次の通りです。

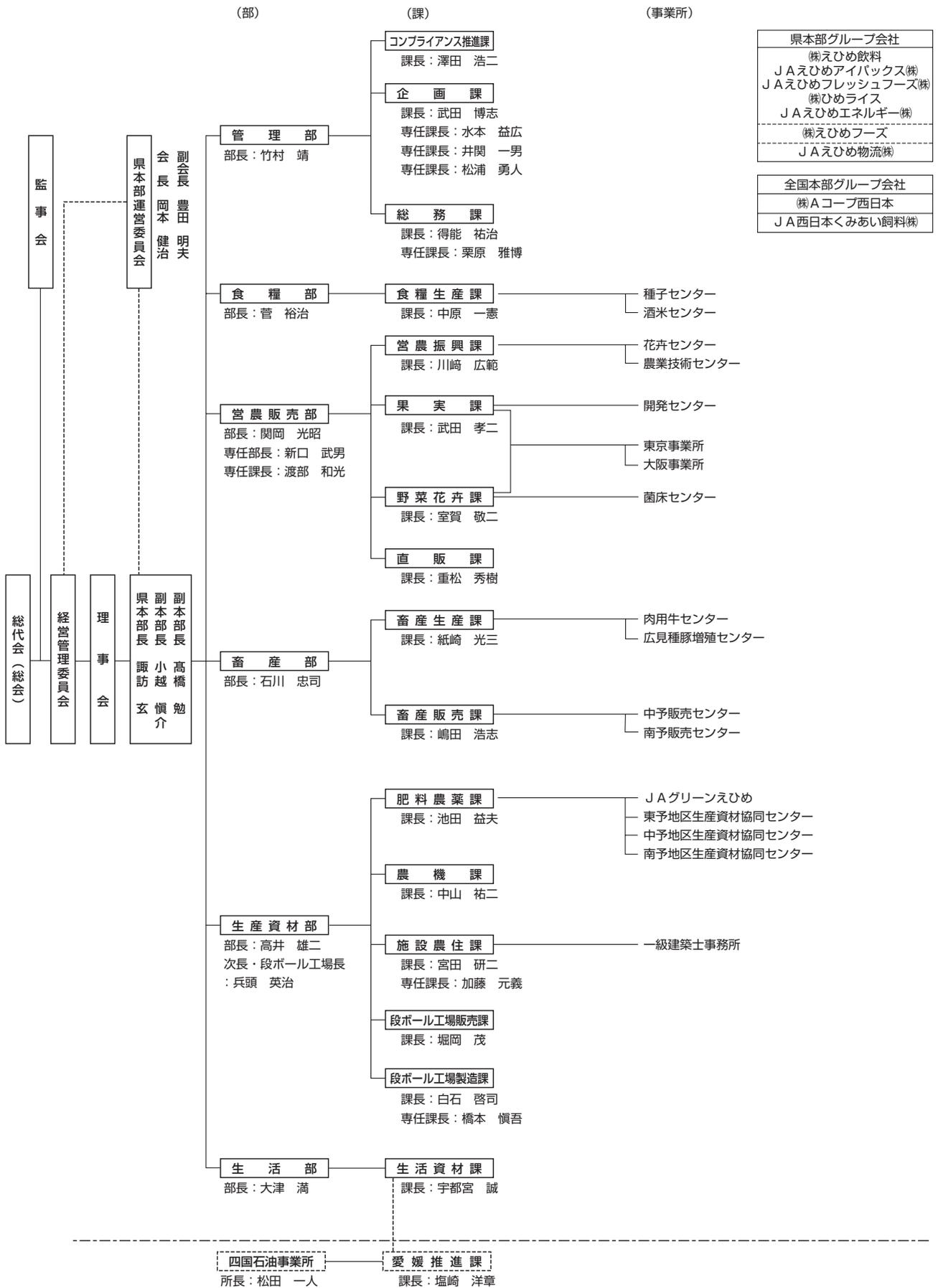
人事異動(平成25年4月1日付) ※審査役以上

氏名	新任部署	旧任部署	氏名	新任部署	旧任部署
竹村 靖	(監) 管理部長	(監) 総務課長	室賀 敬二	(審) 野菜花卉課長 菌床センター所長 事務取扱	(審) 直販課長
関岡 光昭	(監) 営農販売部長	(監) 生産資材部長	馬場 信也	(監) 野菜花卉課	(監) 青果販売課 市場販売専任課長
新口 武男	(監) 営農販売部 トータルアグリード専任 部長	(監) 営農販売部長	重松 秀樹	(審) 直販課長	(副審) 直販課 (課長事故代行者)
高井 雄二	(監) 生産資材部長	(監) 生産資材部次長 段ボール工場長	紙崎 光三	(審) 畜産生産課長 肉用牛センター所長 事務取扱	(審) 畜産生産課長
川田 永治	(監) 株式会社えひめ飲料 出向	(監) 管理部長	嶋田 浩志	(監) 畜産販売課長	(監) 本所畜産総合対策部整備 推進課
澤田 浩二	(審) コンプライアンス推進課長	(副審) コンプライアンス推進課 (課長事故代行者)	大西 弘之	(審) 肥料農業課	(審) 営農振興課 (課長事故代行者)
武田 博志	(監) 企画課長	(監) コンプライアンス推進課長	中山 祐二	(審) 農機課長	(副審) 農機課 (課長事故代行者)
水本 益広	(監) 企画課 J A総合専任課長	(監) 株式会社えひめ飲料 出向	兵頭 英治	(審) 生産資材部次長 段ボール工場長	(審) 農機課長
得能 祐治	(審) 総務課長	(副審) 総務課 (課長事故代行者)	崎山 一誠	(審) 生活資材課 (課長事故代行者)	(審) 生活資材課
栗原 雅博	(審) 総務課 共通庶務専任課長	(審) 本所燃料部四国石油事業所 愛媛推進課長	塩崎 洋章	(審) 本所燃料部四国石油事業所 愛媛推進課長	(副審) 肥料農業課 (課長事故代行者)
中原 一憲	(審) 食糧生産課長 種子センター所長 事務取扱 酒米センター所長 事務取扱	(審) 食糧生産課 種子センター所長 事務取扱	吉村 公一	(審) 本所燃料部四国石油事業所 業務企画課	(審) 酒米センター所長 食糧生産課 兼務
佐尾 英二	(審) 食糧生産課 (課長事故代行者)	(審) 株式会社ひめライス 出向	中矢 琢	(監) 株式会社えひめ飲料 出向	(監) 企画課長
川崎 広範	(審) 営農振興課長	(審) 営農振興課長 菌床センター所長 事務取扱 開発センター所長 事務取扱	森川 威久	(監) J A えひめアイバックス 株式会社 出向	(監) 畜産部 (畜産生産課・畜産販売課) 畜産事業再編専任課長
平岡 正行	(審) 営農振興課 (課長事故代行者)	(審) 大阪事業所長	篠原 洋司	(審) J A全農ミートフーズ株 式会社 出向	(全国・副審) 畜産部次長 畜産販売課長 事務取扱
武田 孝二	(審) 果実課長 開発センター所長 事務取扱	(審) 青果販売課長			

【表の見方】 職能資格呼称等は略称表記しています。
(監) = 監理役、(審) = 審査役、(副審) = 副審査役

全農愛媛県本部 2013年度（平成25年度） 機構図&ライン管理職等配置

平成25年4月1日現在（6部16課17事業所）



「4月14日は「オレンジデー」 イベントやフェアでPRします」

果実課

J A全農えひめ果実課は、愛媛発祥の4月14日「オレンジデー」を、バレンタインデー・ホワイトデーに続く愛の記念日として定着させ、全国一の生産量を誇る愛媛産柑橘類のPR・消費拡大と産地振興につなげる取り組みを進めています。



▲愛媛いよかん大使がPR・消費宣伝活動（エミフル）

今シーズンも、「愛のオレンジロード」として、11月3日「みかんの日」から4月14日「オレンジデー」までの記念日に「愛のシンボルであるオレンジを贈り合いました」と、各記念日ごとに旬を迎えた柑橘のPRに取り組んでいます。
ホワイトデー直前の3月9日にはフジグラン松山、3月10日には松前



▲昨年開催した東京ドーム「もうすぐオレンジデーナイト」

町のエミフルM A S A K Iで、バレンタインデーに続き、愛媛いよかん大使らが、「オレンジデー」と「せとか」「デコボン」「清見」など旬の柑橘の試食宣伝と「オレンジロード」のPR活動を行いました。売り場では、リーフレットを配布するともに、柑橘購入者100組に「ハート型観葉植物&せとか」セットをプレゼントし、「オレンジデー」をアピールしました。

◆4月のイベント・フェア

4月14日「オレンジデー」に向けて、県内外でイベントやフェアを実施し、オレンジデーと愛媛産柑橘をアピールします。

〔県外〕

東京では、昨年続き、「ORANGE DAY in Tokyo」と題して、チームカラーがオレンジ色の「読売巨人軍」、オレンジ色にライトアップされる「東京タワー」とタイアップし、オレンジデーを盛り上げます。

東京ドームでは、4月12日、巨人VSヤクルト戦を「もうすぐオレンジデーナイト」として提供開催。場内のオーロラビジョンで、オレンジデーCMを放映し、4万人の観戦客にPRします。また、オレンジ色を

身につけた入場者先着2,000人に「清見」を、抽選で200人に柑橘プレゼントを実施します。

東京タワーでは、4月13日と14日、「オレンジまつり」を開催。タワーの高さ333メートルにちなみ、333人に「清見」をプレゼントします。

また、東京の三越日本橋本店では、4月12日から14日まで清見タワーを設置し、試食宣伝販売を交えて「オレンジデー」をアピールします。

京阪神地区では、阪急百貨店6店舗と阪神百貨店梅田本店等で、4月14日を中心に、「オレンジデーフェア」を開催。柑橘購入者への景品プレゼントや愛媛いよかん大使によるPR活動、生産者によるPR活動を計画しています。

〔県内〕

松山空港では、4月14日、みかんタワーやのぼり等でオレンジデーの装飾を行い、空港利用者1,000人に清見のサンプリングを実施。ポスター・のぼり等を活用してオレンジデーをPRしていきます。

協力店では、「オレンジデーフェア」を開催し、柑橘の試食宣伝とポスター・のぼり等を活用してオレンジデーをPRしていきます。

品名	規格	販売価格	消費税	税込価格
えひめみかん・いよかんジュース (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	1,829	91	1,920
えひめつぶみかん・いよかんジュース (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	2,667	133	2,800
えひめみかん・いよかんジュース (缶)	ケース (250g×30本)	2,143	107	2,250
愛媛なつみかん50 (ペットボトル)	ケース (1ℓ×8本)	1,905	95	2,000
愛媛の味わい柑橘100 (ペットボトル)	ケース (1ℓ×6本)	1,886	94	1,980
愛媛の特煎茶 (ペットボトル)	ケース (500ml×24本)	2,286	114	2,400

生活
資材課

「えひめみかん・いよかんジュース」
お茶等消費拡大・愛用運動を展開!

J Aグループ愛媛 茶等愛用運動」(J Aグループ愛媛は、今年も4月1日から、『えひめみかん・いよかんジュース・おひめ主催)を実施しています。

農畜産物消費拡大推進本部・県内各 J A・J A愛媛中央会・J A全農えひめ主催)を実施しています。

この運動は、県内産主要農畜産物の消費拡大により、地域農業の振興とともに、良質で安全な県産品の愛用を進め県民の健康増進をめざす「愛媛県産農畜産物加工品消費拡大運動方針」を受けて毎年取り組んでいるものです。

ジュースの愛用運動は8月末まで、お茶は12月末までの期間限定となっております。今年度は計35万ケースを目標に取り組みますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

取扱品目
「愛媛ポンカン50」に代えて新たに「愛媛

なつみかん50」を加え、計6品目の商品構成となっております。

取り扱い品目は、果汁情勢や利用者の利便性を考慮し、名称・内容や容器・デザイン、1ケースの入り数、価格を変更した商品もありますので、ご注意ください。

【商品特徴】

① えひめみかん・いよかんジュース

愛媛の元気な太陽を浴びて育った温州みかんと伊予柑の果汁をブレンドした飲みやすく、体にやさしい果汁100%ジュースです。1ℓペットと250g缶があります。

② えひめつぶみかん・いよかんジュース

愛媛産の温州みかんと伊予柑の果汁にみかんの果粒(つぶつぶ)を加えた、普通のジュースでは味わえない飲む「果物感覚」の果実分100%ジュースです。

③ 愛媛の味わい柑橘100

愛媛産の不知火・いよかんとその他柑橘の果汁を贅沢にブレンドした爽やかな味わいのジュースです。1ℓペットボトル。

④ 愛媛なつみかん50 (新製品)

愛媛産夏みかん果汁を使用したスッキリ飲みやすい飲料(果汁50%)です。1ℓペットボトル。

⑤ 愛媛の特煎茶

愛媛県産茶葉を100%使用し、心地よい苦味とさっぱりした後味の緑茶です。食後やスポーツの後、焼酎等の緑茶割りとしてご利用いただけます。500mlペットボトル。

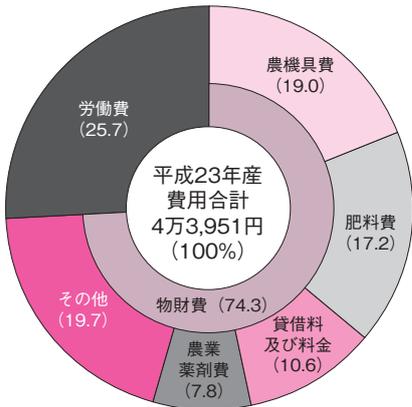
毎年県産品として県内外への贈答品として大変好評であり、今年も贈答需要に対応できるよう宅配も受けつけています。詳しくは最寄りのJ Aにお問い合わせください。

◇変更点Ⅱ名称・ラベルデザイン変更

統計BOX

はだか麦の10a当たり全算入生産費は、5万1,445円 — 平成23年産麦類、大豆生産費(全国)の概要から —

図1 はだか麦の主要費目の構成割合(10a当たり)

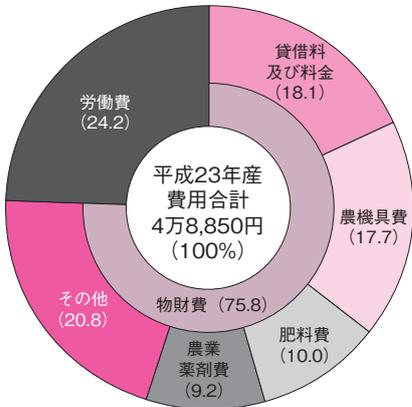


平成23年産はだか麦の10a当たり資本利子・地代全額算入生産費(以下「全算入生産費」という)は5万1,445円で、物財費は3万2,671円、労働費は1万1,280円でした。

はだか麦は農機具費が19・0%でトップ

今月、「経営所得安定対策」(旧称「農業者戸別所得補償制度」)において、直接支払交付金の対象となっている品目のうち、はだか麦と大豆の生産費について見えます。

図2 大豆の主要費目の構成割合(10a当たり)



平成23年産大豆の10a当たり全算入生産費は

大豆は賃借料及び料金がトップ

費用合計は4万3,951円で、主要費目の構成割合を見ると、物財費のうち農機具費が19・0%(8,337円)でトップ、次いで肥料費が17・2%(7,541円)、賃借料及び料金が10・6%(4,679円)となっており、上位3費目で費用合計の約半分を占めています(図1)。

また、60kg当たり全算入生産費は1万361円でした。

入生産費は6万2,097円で、物財費は3万7,049円、労働費は1万1,801円でした。費用合計は4万8,850円で、主要費目の構成割合を見ると、賃借料及び料金が18・1%(8,849円)、農機具費17・7%(8,643円)、肥料費10・0%(4,888円)となっており、上位3費目で費用合計の約半分を占めています(図2)。

また、60kg当たり全算入生産費は2万867円でした。

我が国の農業は、農業者の高齢化が急速に進み、この20年間で農業所得が半減するなど、危機的状況にあります。農林水産省では、25年産より「農業者戸別所得補償制度」を「経営所得安定対策」へ名称変更し、一部施策を組み換えて実施する予定です。農業者、農業者団体、行政が協力して「経営所得安定対策」を推進する体制を構築し、食料自給率の向上を図りつつ、安全で安心な国産農産物の安定供給、産業としての持続性を速やかに回復し、農村の再生を図ることが重要です。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ



笑顔は幸せの魔法なのです！

春は出会いの季節！ 誰かに出会った時あなたはどんな印象を与えているのでしょうか？

鏡にあなたの顔を映してみてください。さあ、どんな顔が映っていますか？ 怒った顔？ しかめっ面？ 無表情の顔？ それともニコニコ？ 鏡に映ったあなたの表情があなたの第一印象であり、今の環境、周囲の人、そして人生そのものをあらわしています。あなたが変われば周りも変わる。あなたが変わらなると鏡の中のアなたも変わらない。そして今の状況も変わらないのです。誰でも生まれもった「顔立ち」をかえることはできませんが「顔つき」は自分次第でどんどん変えていくことができます。

表情筋という言葉をご存知でしょうか？ 顔には30種類以上の筋肉があり、それらが相互に作用して、人間の表情を作り出しています。この表情筋、通常の生活においては全体の30%しか使っていません。顔の筋肉を使わないと筋肉が硬くなったり、衰えて顔のハリや弾力をなくし、シワやたるみの原

因になります。会話をする機会が減ってきたり、パソコンにばかり向かっていると筋力はどんどん衰えてきます。また人を憎んだりいつも不満ばかり抱えていると、顔つきは暗く、眉間にシワがよってきます。逆にいつも積極的

に笑顔を作ると、気持ちも明るくなり心も軽くなるのです。笑顔を作れば嫌なことがあっても乗り越えられる。このプラス思考を実践できるようになったのは私の父親の存在でした。

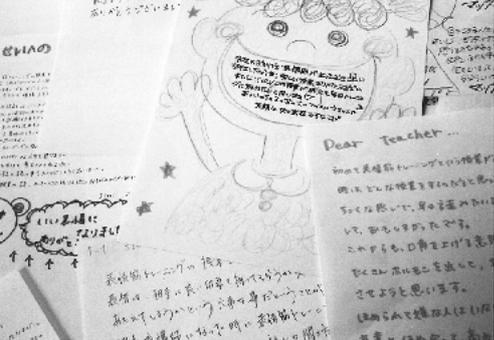
いつも明るく朗らかな父親が救急車で運ばれたのは15年前のこと。病名は脳梗塞でした。1ヶ月の昏睡状態のあとは、私の知らない父親になっていました。喋ることが大好きでお酒を飲むことが大好き、そして動くことが大好きだった父が手足を自由に動かすことも、食べることもしゃべることもできない姿になってしまいました。過ぎていく日をただ毎日天井を見つめ続け

てもそんな寝たきりの状態で一番辛いはずの父親はいつも笑顔でした。父

藤崎 朱美

AKEMI FUJISAKI

NPO法人にこっと 理事。愛媛県表情筋トレーニング協会 会長。えひめ結婚支援センター コーディネーター。日本顔学会 会員。フリーアナウンサー。京都の大学を卒業後、南海放送㈱に入社。その後、㈱FM香川、㈱FM愛媛に勤め数々の番組を手がける。出産を機にフリーアナウンサーとなり、式典・披露宴・イベントの司会、ナレーション、CM出演など幅広く活躍。2005年、四国初の表情筋トレーニング講師のプロ資格を取得。企業・プライダル・医療機関における研修、講習、トークショー、セミナーの実施、PTA・父母会・同窓会の講演、また表情筋トレーニングのプロフェッショナル講師育成・指導等、幅広く活動中。県内の高校・専門学校・大学の講師も務めている。2008年、少子化対策の一環として愛媛県の出資で設立された公的機関「えひめ結婚支援センター」のコーディネーターに就任し、「愛媛の婚活」を全力で応援中！ テレビ、ラジオ、CM、雑誌等にも多数出演。松山市出身、松山市在住。◆NPO法人 にこっと事務局 HP <http://ameblo.jp/nicotto-ehime/> E-Mail nicotto_ehime@yahoo.co.jp フェイスブックでもイベント好評配信中。



▲看護専門学校から生徒さんの手紙。生徒さんの声が私の励み！
 とっておきの笑顔で患者さんに接してほしいと、願いつつ...

にとつて生き甲斐は何だったのだろうか？ 今でも考えます。ただ病室で私は、彼のものごとりとほほえむ姿に勇気付けられ励まされてきました。嫌なことがあつたり泣きそうになるといつも父親の笑顔に助けられました。彼は1年半前に何も語ることもなく笑顔で息をひきとりました。笑顔は自分だけでなく人を幸せにしてくれる魔法の表情だと私は思います。

この経験を活かし現在、笑顔の大切さを知ってもらうため愛媛県下の各病

院の看護師さんや看護専門学校あるいはデイケアの職員の方々に表情筋トレーニングを教えています。医療技術はもちろん大切だけれど患者さんの痛みや、やり場のない不安、そして家族の苦しい思い、悲しみを少しでもやわらげてくれるのは医療現場の方の笑顔なのではないでしょうか。

ではここで皆さんにも最高の笑顔が作れるようになるトレーニングを1つご紹介しましょう。口元から頬にかか



▲いつも口角をあげる習慣をつけています（笑）

- を鍛える方法です。笑筋は口の両端に伸びる幅の広い筋肉で口の両端を外側（左右）に伸ばす働きをしています。
- ① 上下の歯を軽く噛み合わせ唇を閉じて5秒・5カウントで口角を徐々に外側へと引いていきます。
 - ② 最大に引いたところで5秒キープ。
 - ③ 5秒・5カウントで元の自然な表情に戻していきます。
- ①②③の動きを1日5回行います。簡単でしょうか？ これを毎日続けることにより自然な笑顔がうまれます。ちなみに4歳児が1日に笑う回数は400回、大人は15回なんだそうです。へらへら笑うのは…と抵抗を感じている男性の皆さん、笑顔こそが一番強烈なビジネススマナーではないでしょうか？
- 人は幸せだから笑うのではないのです。幸せになるために笑うのです。楽しいから笑うのではないのです。口角をあげるから楽しくなるのです。あなたが笑顔だと周りの人は幸せになります。
- そして何よりあなたが幸せになります。さてもう一度あなたに問いかけます。今のあなたはどんな顔をしていますか？
- 鏡に映ったあなたの顔があなたのことからあなたの人生を決めます。

●「えひめ米品質向上推進大会」

良質米共励会で宮内敬三さんが県知事賞受賞

愛媛県米麦振興協会（会長＝諏訪玄J A全農えひめ県本部長）は、3月8日、ウェルビア伊予で、「えひめ米品質向上推進大会」を開きました。大会には、生産者・J A・行政の関係者など100人が出席。優良生産者表彰と25年産米の作付け計画を確認しました。

25年産米は、15,300haで売れる米づくりに向けて需要に対応した銘柄別作付けを推進することとし、①「コシヒカリ」「あきたこまち」「ヒノヒカリ」は主力品種として県内需要に応じた生産誘導（3品種計12,920ha）を行う、②「愛のゆめ」は、実需者（販売先）の需要、「松山三井」「しづく媛」は酒米需要に応じた作付けを行う、③「にこまる」は、平坦地域を中心にヒノヒカリ等で高温により品質低下が顕著に現れている地域で作付け（計画550ha）一を確認しました。

また、愛媛県農林水産研究所農業研究部栽培開発室の西原定照主任研究員が、今年2月18日付で県の奨励品種に採用された「にこまる」の品種特性・栽培方法を報告しました。

「平成24年度愛媛県良質米・麦作・大豆共励会」表彰式では、良質米「農家の部」で宮内敬三さん（J A松山市）が県知事賞、最優秀賞は、麦作「農家の部」で赤星文人さん（同）、麦作「集団の部」で川上生産組合（渡部豊代表・同）、大豆「集団の部」で吉田上生産組合（鈴鹿清重代表・J A周桑）が受賞しました。

また、平成24年度愛媛県農産園芸功労知事表彰（水田農業部門）も行われました。

その他の受賞者は次の皆さんです（敬称略・カッコはJ A名・市町名）。



◆良質米共励会【農家の部「コシヒカリ・あきたこまち部門」】▽優秀賞＝大政昭吉（松山市）、弓達武明（同）、▽優良賞＝渡部豊（同）、井上千鶴子（愛媛たいき）【農家の部「ヒノヒカリ・愛のゆめ部門」】▽優秀賞＝大川泰範（松山市）、仙波正幸（同）▽優良賞＝渡部寛（同）、大政憲治（同）

◆麦作共励会【農家の部】▽優秀賞＝渡部幸重（松山市）、戸田盛豊（周桑）【集団の部】▽優秀賞＝ていれぎの郷（井門裕昭代表・松山市）、大・宮麦作集団（芥川繁幸代表・周桑）

◆大豆共励会【農家の部】▽優秀賞＝戸田博明（周桑）【集団の部】優秀賞＝農事組合法人妙口原生産組合（赤堀保代表・同）

◆愛媛県農産園芸功労知事表彰

【農業者】三好敬一（西予市）、岡本省三（西条市）、荻山知良（松山市）、大川泰範（松前町）

【団体】農事組合法人まつぎ（今治市）、吉田上生産組合（西条市）

●J A愛媛果樹技術指導員会 果樹技術研修会

隔年結果防止と高品質生産対策に取り組む

J A愛媛果樹技術指導員会（宇都宮宗昭会長）は、3月1日、松山市のJ Aえひめ中央大会議室で、果樹技術研修会を開きました。

研修会には、県内J Aの果樹技術員のほか県・果樹研究センター関係者など約60人が出席。あいさつした宇都宮会長は、「連年安定生産で次代につなげる産地づくりを」と呼びかけました。果樹の24年産の生産総括と25年産の生産対策などを協議。みかんの表年となる25年産柑橘は、樹に応じた剪定、摘蕾、摘果による適正着花（果）対策で隔年結果を防止するとともに、高品質生産対策に取り組むことを確認しました。

なお、J A愛媛果樹技術指導員会名誉会長賞表彰が行われ、矢野正高さん（J Aにしうわ）、

大出哲也さん（J Aえひめ中央・左）が表彰されました。



▲名誉会長賞を受賞した大出さん（左）と矢野さん

●畜産に関する意見交換会

TPP参加反対と畜産経営安定対策を要望

愛媛県畜産振興連絡協議会は、2月25日、松山市内で自民党県連畜産振興議員連盟と「畜産に関する意見交換会」を開きました。

意見交換会は、平成13年から毎年行っており12回目。今回は、県内4畜種（肉牛・養豚・酪農・養鶏）の生産者組織代表、JA関係者らが、県議会議員21人に、TPP参加への反対と畜産経営安定対策の継続などを要望し、意見交換を行いました。

連絡協議会の竹内日出男会長は、「配合飼料価格の高騰と高止まり、牛肉をはじめとした輸入増大などで経営は非常に厳しい。畜産経営安定対策にかかる県助成の継続や制度としての確立をお願いしたい。またTPPに参加すれば畜産をはじめとする農業は大打撃を受け、医療・保険等くらしや消費者への影響も大きい。国民的議論で阻止していきたい。今後も県議の皆さんには断固阻止の声をあげ、一緒に活動していただきたい」と要望。議員連盟の渡部浩会長は、「畜産を取巻く環境の厳しさを認識している。様々



な機会を通じて、皆さんの意見を県政や国政に反映できるように要望していきたい」と応えました。

生産者代表からの強い要望に対して、県議からは「TPPの問題は食の安全・安心の問題でもあり、影響は大きい」「一次産業を守っていく、日本の権益を守っていくという気概を持って、地方の声を反映していきたい」という意見が出ていました。

●JAグリーンえひめ「春の営農フェア」 3月8日から携帯メール会員の募集を開始

東温市のJAグリーンえひめは、3月8日～10日、「春の営農フェア」を開きました。

期間中は日替わりで、家庭菜園や肥料・資材等の営農相談、土を持ち込んだ方には無料で土壌分析を実施。花の寄せ植え、ウインナーつかみどり、フレッシュ市出荷会員によるうどんお接待のほか、県内産の牛・豚肉の特売をはじめ、多数のイベントを行いました。

同店では、3月8日から携帯メール会員（入会無料）の募集を開始。会員には、お店の旬な情報や会員限定のお得な情報をメールで配信するとともに、来店ポイント20ポイントで粗品を進呈します。



●全農愛媛県本部・コープえひめ 提携促進協議会 交流活動や売り場づくりアピールで連携を強化

JA全農えひめとコープえひめは、2月28日、「全農愛媛県本部・コープえひめ提携促進協議会」を開きました。

協議会は、平成6年に締結した「協同組合間提携強化に関する協定」に基づき毎年開催しており、今回で18回目。会議には、両組織の幹部と取引のあるJA全農えひめグループ会社の社長が出席し、24年度の日常的な取り組み結果やコープえひめからの提案・要望も踏まえて、JA全農えひめグループから事業別に25年度の取り組み提案を行い、連携強化に向けて協議しました。

25年度は、日常的な担当者レベルのコミュニケーションや組合員産地見学等交流活動の強化、産直・県内産をアピールした店舗の売り場づくりやチラシ、特徴・食べ方を伝える消費宣伝活動の強化を通じて、両組織の組合員の期待に応えられるよう連携を強めていくことを確認しました。

なお、全農えひめグループからコープえひめへの平成25年度供給高は、約13.5億円を計画しています。



●エコープマーク品共同購入担当者研修会 「JAくらしの宅配便」展開に向け商品研修

JA全農えひめ生活資材課は、2月19日、砥部町の生活センターで、エコープマーク品の共同購入担当者研修会を開きました。

この研修会は、県内で「JAくらしの宅配便」を導入するにあたって、取り扱う共同購入品・エコープマーク品が1,000品目に拡大するため、担当者の商品知識の向上を目的に開いたもの。エコープマーク品メーカー11社が、参加したJAの生活指導員・女性部事務局・共同購入受渡担当者30人に、見本市形式で商品説明等を行いました。

参加者は、馴染みのなかった商品なども手にとって、商品特徴のほか、おいしい食べ方や使い方などの説明を熱心に聞いていました。

生活資材課では、25年度に「JAくらしの宅



配便」を県内全JAに導入しながら、こうした見本市形式の研修会を各JAで実施するよう呼びかけていきます。

●第26回ひめライス杯・南海放送レディス卓球大会 スポーツを通じて愛媛のお米「ひめライス」をPR

㈱ひめライスは、スポーツを通じて愛媛のお米「ひめライス」をPRしようと、2月24日、松山市の県武道館主道場で「第26回ひめライス杯・南海放送レディス卓球大会」を開きました。

この大会は、県内最大規模の女子ダブルスの大会。19歳から93歳まで、過去最高となる209ペア・418人が出場し、レベル別に5クラスに分かれて熱戦を展開しました。

最もレベルの高いAクラスで優勝した塩崎恵理子・高橋澄香ペア（所属＝結、松山市・新居浜市）は、「ひめライスが欲しかったので、うれしい。来年も連続優勝でお米をもらいたい」と、副賞のひめライスを手に笑顔を見せていました。

同社は、各クラス3位以内の選手に副賞の無洗米『あらうまい!』10kgを贈りました。



▲副賞のお米を手に喜ぶAクラス優勝の塩崎（右）・高橋ペア

●JAえひめアイパックス(株) 大洲農高で会社概要説明

JAえひめアイパックス(株)（本社＝大洲市）は、2月15日、大洲農業高校で開かれた「地元企業の高校内企業説明会」に参加しました。

この説明会は、大洲公共職業安定所が高校生の地元企業への理解促進と職業意識形成支援を目的に昨年から開催。JAえひめアイパックス(株)は昨年に続き参加しました。

同社の済川誠社長が、約30分の説明を3回実施。2年生約60人にJA全農えひめのグループ会社としての理念・役割、事業方針・内容を紹介し、生徒は熱心にメモをとっていました。

同社には、毎年同校卒業生が入社しており、こうした取り組みを通じて地域の優秀な人材確保と地域への貢献に努めていきます。



なんでもBOX

●生活習慣を改善したい方におすすめ

『POMアシタノカラダみかんジュース』発売！

(株)えひめ飲料は、3月4日、自社独自の製法により、ミカン3個分のβクリプトキサンチン(βCRP)が摂れる「POMアシタノカラダみかんジュース」を通販限定で発売しました。

βCRPは、ミカンに多く含まれる機能性成分。同商品(125ml紙パック)1本あたり、疫学研究の結果から生活習慣病になりにくいとされるミカン約3個分のβCRP3mgを含む。1本飲めば1日に必要とされるβCRPが摂取できます。1本あたり55キロカロリーと、ミカン1個とほぼ同じ低カロリーのミカン100%ジュース。

平成22年から3年間実施された農林水産省実用技術開発事業「βCRPに着目した柑橘加工副産物利用による次世代型機能性食品の創出」の研究成果を活かして開発した商品。βCRP効果を科学的に確かめる試験に使用されたみかんジュースをそのまま商品化しました。

同社では、「生活習慣を改善したい方におす



めの商品。お客様にミカン果汁の美味しさとともに健康(機能性)をお届けしたい」と力を入れており、初年度5万ケースの販売を見込んでいます。

価格は、1ケース(24本入り)3,024円(税込み・送料別)。詳しくは、(株)えひめ飲料ホームページまで。

●えひめ愛フード推進機構

えひめの「食」料理コンクール開催！「愛」あるブランド産品PR

えひめ愛フード推進機構などは、『ふれ愛・媛ポーク』など「愛」あるブランド産品のPRと地産地消の推進をめざし、2月18日、いよてつ高島屋で、平成24年度えひめの「食」料理コンクールを開きました。和食・洋食・中華の3部門に計60人のシェフが、指定食材(和食は『ふれ愛・媛ポーク』や乾しいたけなど、洋食は「愛」あるブランド産品に認定されているJA産品など、中華は『ふれ愛・媛ポーク』とはだか麦使用の松山味噌)を使った料理を出品し、技を競いました。

一般消費者を含む審査員が、見た目や味覚、バランス、独創性などを審査し、各賞が決まりました。入賞作品は、えひめ愛フード推進機構のホームページで紹介されています。



▲和食部門最優秀賞の「媛ポークと乾しいたけのはさみ焼 柑橘ソース」



インフォメーション

おたのしみ市城南店

- TEL/089-956-0620
- 営/9:00~20:00
- 休/無休
- 住/伊予郡砥部町高尾田71 Aコープ城南店内

おたのしみ市城南店 ~Aコープ 城南店~

葉っぱがピン、ヒゲもシャキッ。野菜が語るこの鮮度

素

敵野菜との遭遇は 買いすぎに要注意?!

Aコープ城南店は地域に密着し、酒類から衣料品までそろえる総合スーパーマーケットです。その入り口付近約100mのスペースに多い時には200個のカゴを並べる「おたのしみ市城南店」。旧砥部町内と松山市久谷地区の生産者約150名が朝採れ新鮮野菜を出品する直売コーナーです。15年ほど前に「出荷が楽しい!」から「おたのしみ市」と命名して始まりました。



▲コの字型で見やすく、求めやすい「おたのしみ市」



▲野菜を前に思量する方、わき目を振らず目的のカゴに一目散に向かう方、求め方は人それぞれに。開店直後の買い物風景



▲OH! まるで野菜畑。豊かな農地が連想される



▲やさしい花色に思わず手のびる

品の出荷につながっています。

出荷数量が多いと、おいしいものも盛りだくさんです。春は筍、ツクシ、ワラビなどの山菜も出てきます。夏は手塩にかけた梨や桃、ブドウ、ハウスマスカンなどの果物が次々と、実りの秋はさらに多様に、冬・お歳暮には○○さんの愛果28号など指名の箱買いも。菌床椎茸や餅は年中絶えることなく並んでいます。この品数とボリュームは出荷者の意識の向上にもなり、さらに良い商品の出荷につながっています。



大本 藤夫さん
(Aコープ城南店 青果コーナー主任)

「おたのしみ市」は当店の集客につながっている自慢のコーナーです。きれいな野菜ばかりでしょう! これからどんどん農産物が出てくる「おたのしみ」な時期を迎えます!



【ピンポイントmap】



【ピンポイントmap】



【広域map】



【ピンポイントmap】



インフォメーション

おたのしみ市とべ店

- Tel/089-962-2916
- 営/9:30~18:30
- 休/無休
- 住/伊予郡砥部町大南325 Aコープとべ店内

おたのしみ市とべ店 ~Aコープとべ店~

地元の方に愛されつつ、観光客には地元の良さをアピール

野

菜が新鮮だと
「毎日買い」も楽しい

砥部町の昔ながらの商店街にあるAコープとべ店は地域住民が足繁く通うスーパーマーケットです。産直コーナー「おたのしみ市とべ店」は地元の安心・安全・新鮮な農産物を提供し、もともと地域とのかかわりを深めようと10年ほど前に設けられました。出荷者は地元砥部町内の生産者約30名、季節の野菜や果物を中心に漬物、乾物も並びます。周辺は観光スポットが並び、観光客がふらりと立ち寄っては、砥部焼同様に興味深い掘り出しものを見つれたり、なかには柑橘の箱



▲正面のドアが開けば青いカゴの「おたのしみ市」が目飛び込んでくる

買い・宅配注文が入り生産者に連絡をとったりと、約6mのスペースは中身の濃いコーナーになっています。



▲一人の生産者のカゴの中。春菊、ナス、ホウレンソウ、柑橘と、ぎっしり



宮本 忠浩さん
(Aコープとべ店 店長)

「観光客にも求められる柑橘もはるみ、八朔、レモン、カボスまで多品種ありますよ」



インフォメーション

ふるさと市

- Tel/0892-50-1061
- 営/10:00~18:30
- 休/日曜
- 住/喜多郡内子町寺村1019 Aコープおだ店内

ふるさと市 ~Aコープおだ店~

山里の幸ならおまかせを。小田うどんに新茶もあるよ

懐

かしい味に
出会えそう

「ふるさと市」は内子町小田地区の野菜や米、春は山菜、秋には柿や栗など、山の幸も並ぶ広さ6㎡の直売コーナーです。平成13年4月に地元・小田の安全な農作物の供給とAコープおだ店の活性化を目指して開設。出荷会員約30名は「Aえひめ中央小田ブロック女性部」の方々なので、山菜おこわや蒸し饅頭、かき餅、ぜんまい水煮、雛祭りが近づけばひな豆、子どもの日には柏餅など、女性目線の惣菜や加工品がセールのポイントになっています。



松岡 里美さん
(Aコープおだ店 従業員)

「地元・小田でつくった醤油や味噌、ひしおなども一緒にいかがですか。小田の食卓が楽しめますよ」



▲つやつや、やわらかい手づくり柏餅



▲原木シイタケ。大きさや形が様々なのもご愛嬌で



▲のどかでほのぼの、「ふるさと市」



▲手づくり加工品を前に「今日は蒸し饅頭を買いに来たのよ」「私はひな豆にしましょう」と楽しい会話の花が咲く



●2月号特集を読んで。私たちの住む南予地域では、第一次産業の低迷が叫ばれていますが、TACのように攻める営農指導もこれから重要なのだと思います。
県内大規模農家の特集をしてもらいたいです。
(宇和島市・安岡 崇徳さん)

●TACの活動を初めて知りました。産地の活性化や今後の農業にとっても頼もしい存在であって欲しいです。
今、いろんな種類のミカンがあるので、ミカン特集で紹介して欲しいです。
(松山市・瀬村 美緒さん)

●TAC活動の特集記事は、あまり聞いたことがないので、興味があり、よくわかりました。今後一層の普及活動につとめていただいで、地域農業発展に寄与していただきたいと思っています。昨年末から雨が多くて麦まきに大変苦労し、今年の1月に種まきができて、ようやく芽が出てきましたが、今年は収穫ができるかどうか心配です。
(松前町・福島 和子さん)

●農の風景を読んで。「甘平」が愛媛オリジナル品種だと最近知りました。「紅まどんな」はとても美味しい、「甘平」も大好きです。すばらしい品種が2つも愛媛オリジナルだというのは、とても誇らしく思います。生産者さんの努力の賜物ですネ。
家の庭にブルーベリーを植えているのですが、なかなか成長してくれないので、育て方を教えていただけたらうれしいです。
(松山市・福田 しのぶさん)

●ふるさとエッセー、なんて素晴らしい人たちがかりでしょう。読んでいるうちに胸が一杯になり、どんな方も日々努力し研究し続けているんだなあ。愛媛県で酒造会社46社もあるとのことと驚きです。酒造りは1人ではできず、微生物の働きとチームワークによるものとか。和醸良酒Ⅱ調和のとれた笑顔の耐えない職場環境が味にも反映され、良い味を醸し出す。一番の仕事はスタッフに気持ちよく働いてもらうこととありましたが、こんな社長の下で働いている

皆様は大変幸せですね。笑う門には福きたる、まさにその通り愛媛の酒を活性化させて仲間を減らすことなく前進してください。
何事も個人情報を守らなければいけないといっています。が、「リーダーズ通信」に読者のページになぜ住所を書いてはいけないのですか。住所がわかれば、いろいろと連絡したり教えていただいたりできるんですけど、そんなことできませんか？
(西条市・高橋 千代美さん)

★編集部より：読者からのハガキは、ハガキのキリトリ線の外枠に記載しているとおり、法令を遵守し適切に取り扱っています。住所の詳細を入れてしまうと、第三者に開示することになるため、従来どおり市町までの表記にとどめさせていただきます。ご了承ください。

●エッセー「酒造り人生の中で」で、酒造りの内容が良かったです。なんでもBOXの(菊間仙高牧場、ニュースの社会貢献活動やがんばれ受験生など)JA全農えひめの活動がよくわかりました。
季節の野菜・果物を利用した料理のレシピやスイーツなどお菓子作りの情報などを特集して欲しいです。安倍政権がTPP交渉への参加を表明し、地方で反対意見が多いが、こうなれば農業への影響は大きくなるという具体的な内容を生産者や消費者、一般企業にもわかるような説明資料を特集してもらいたいと思います。
(今治市・渡部 美保子さん)

●直売所めぐりをいつも楽しく読んでいます。この直売所も農産物が新鮮で、安心・安全なのはもちろんのこと、それぞれの人気商品もわかるので、あちこち行ってみたいですね。
(西条市・瀬川 憲子さん)

●ニュースはいろいろな情報がわかって楽しい。特に受験シーズンなので「愛媛いよかん」の「予感」の取組みが良かった。伊予柑の生産者が少なくなつたと聞き、淋しいです。農を担っている青年、女性部や生産者の活動など聞きたい(見たい)ものです。
(今治市・柳原 磯美さん)

今月のクイズ

JA全農えひめでは、柑橘の消費拡大をめざし「オレンジデー」をバレンタイン、ホワイトデーに続く記念日として定着させる取り組みを進めています。「オレンジデー」は何月何日でしょうか？
「〇月〇日」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成25年5月15日(当日消印有効)

発表

「あぐり〜ど」6月号で発表します。

当選者発表

2月号の答えは「TAC」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

- 上甲 千恵さん(鬼北町) 福島 和子さん(松前町)
- 星加 友之さん(西条市) 宇都宮明美さん(大洲市)
- 中野 啓子さん(松山市) 米花佐智子さん(八幡浜市)
- 沖中さわえさん(大洲市) 曾根知佐子さん(四国中央市)
- 伊賀 俊光さん(東温市) 平家 祥照さん(八幡浜市)

編集後記

★3月15日、安倍首相がTPP交渉参加を表明しました。政府の試算では、関税撤廃による農林水産業への影響は、食料自給率は、カロリーベース平均23年度の39%から27%程度に低下すると試算され、食やくらし、命を守るため、TPP参加断固反対の運動を進める必要はないでしょうか。
(正直)



今月の素材
麦味噌



麦がもつ独特の風味と香りは
素朴で懐かしいふるさとの味

▶(左) サバの味噌トマト煮 (右後) キャベツと豚バラの味噌麹ホイコーロー、(右下) 冷汁風



指導/学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

サバの味噌トマト煮

〈材料・4人分〉	※1人あたり約179kcal
サバ	4切
生姜	1かけ
水	1/2カップ
酒	1/2カップ
麦味噌	大さじ3
トマト水煮	1カップ
醤油	少々
砂糖	少々

〈作り方〉

- ① サバは皮目に切り込みを入れ、さっと熱湯をかけておく。
- ② 鍋に水、酒と生姜の薄切りを入れて沸かし、煮立てば①を入れ、味噌を煮汁で溶き加える。
- ③ トマトの水煮を加え、醤油と砂糖で味を調え、火を止める。

※新じゃが、スナップエンドウなどを加えてもよい (写真は3cmの長さの塩茹でインゲンと、粉ふき芋を添える)。

キャベツと豚バラの味噌麹ホイコーロー

〈材料・4人分〉	※1人あたり約214kcal
キャベツ	4枚
豚バラ肉 (薄切)	80g
厚揚げ	120g
ピーマン	1個
シタケ	2個
麦味噌	大さじ3
塩麹	大さじ2
砂糖	大さじ2
豆板醤	好みで
ゴマ油	大さじ1

〈作り方〉

- ① キャベツはざく切りにし、豚バラ肉は4cm幅に切る。厚揚げは1cmの厚さに切り、熱湯をかけて水気を切る。ピーマンはヘタと種を除き短冊切り、シタケは石づきを取り、半分に切る。
- ② ①の調味料を合わせておく。
- ③ フライパンにゴマ油を熱し、豚肉を炒め、色が変われば①の野菜類を炒めて②を絡める。

冷汁風

〈材料・4人分〉	※1人あたり約533kcal
米	3合
はだか麦	50g
水	750cc
魚の干物	2尾
ダシ	3カップ
麦味噌	大さじ4
ナス	1/2本
キュウリ	1/2本
塩	少々
紅生姜	適量

〈作り方〉

- ① 米は洗って水気を切り、はだか麦を加え、分量の水で炊く。炊き上がれば混ぜておく。
- ② 干物は焼いて身をほぐす。ナスとキュウリは半月の薄切りにし、塩で揉んで水気を絞る。
- ③ ダシに味噌を溶き、②を加え、冷やしておく。炊き立てのご飯にかけて紅生姜を盛る。

POM 日本の果実—ゆず・りんご・なつみかん—
好評発売中 (500mlペット)



【果汁10%/希望小売価格140円 (税抜)】

『3つの国産果実をおいしくブレンドしました。』

- ① 国産のなつみかん・ゆず・りんご果汁を使用しています。
- ② 香り豊かな「ゆず」、甘酸っぱさとコクのある「りんご」、ほろ苦さが心地よい「なつみかん」それぞれの特長を活かせるようバランスよくブレンドしています。
- ③ 豊かな香りとやさしい甘みで、すっきり飲みやすい味わいです。
- ④ 散歩や行楽にお出かけのときなどにぜひお試しください。



〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com



環境に配慮した植物油インキを使用しています。

きれいな肌は、
きれいな服より
恋を实らせると思う。

ビタミンCでお肌に栄養!

愛を伝えるものって
バラの花以外にない
と思ってました。

オレンジも"愛のシンボル"

デートとか旅行とか
大切な日にかぎって
風邪はやってくる。

β-カロテンで免疫力UP!

温泉にマッサージ。
行きたい場所が
ぜんぶ癒し系。

ビタミンB群で疲労防止

カラダに「愛」を。
ココロに「愛」を。

愛媛のみかん

愛のオレンジロード

オレンジは"愛のシンボル"。「オレンジデー」までの記念日に盛り合って、大切な人との絆を深めませんか。

<p>11/3 12/3</p> <p>みかんの日</p> <p>恋するシーズンの到来</p> <p><small>(旬の柑橘) 蓬田みかん、丸ごとみかん、P.O.M. 豊後みかん、オリーブ100</small></p>	<p>1/14</p> <p>いい予感</p> <p>恋愛成就のいいきざし</p> <p><small>(旬の柑橘) 伊予柑、ポンカン</small></p>	<p>2/14</p> <p>バレンタインデー</p> <p>愛を届けよう</p> <p><small>(旬の柑橘) 伊予柑、ポンカン、はるみ、甘平</small></p>	<p>3/14</p> <p>ホワイトデー</p> <p>愛に応えよう</p> <p><small>(旬の柑橘) テロホン、つとみ</small></p>
<p>4.14 Orange day</p> <p>ふたりがおいに... <small>(旬の柑橘) 伊予柑、ポンカン</small></p> <p>新しい内容はホームページをチェック!</p> <p>愛のオレンジロード 検索</p>		<p>オレンジデー</p> <p>愛を深めよう</p> <p><small>(旬の柑橘) 伊予柑、ポンカン、カラマンダリン</small></p>	

JA全農えひめ

この冊子は再生紙を使用しています。